

## 「MV22オスプレイ」の配備中止を求める意見書

沖縄の普天間基地への配備予定の米海兵隊の垂直離着陸輸送機「MV22オスプレイ」は、沖縄県内だけでなく、全国各地で低空飛行訓練を行うことが明らかとなつて、住民の不安と怒りが広がっています。「オスプレイ」は、開発段階から墜落事故を繰り返し、6月にはアメリカのフロリダで墜落事故を起こしたばかりです。米国の専門家も、自動回転装置がない欠陥機であると指摘、日本の航空法では、飛行を許可されないものです。

米軍によると、訓練は日本全土の米軍が指定した訓練ルートで、夜間も含めて低空飛行を行うとしており、このうち「グリーンルート」と称する訓練ルートは、東北の青森・岩手・宮城・福島をつなぐコースであり、県内への飛来による事故等が心配されます。

米軍機の騒音、墜落の危険で今も苦しめられている沖縄県では、県知事をはじめ、県議会、41市町村長と議会がすべて配備に反対しています。

全国知事会も昨日、「自治体や住民が懸念する安全性の確保のできていない現状では受け入れできない」として、配備や国内での低空飛行訓練に反対する緊急決議を採択しました。

国民の安全と命を守る立場から、「オスプレイ」配備と日本国内で低空飛行訓練に反対するものです。政府においては、アメリカ政府に対して「オスプレイ」配備と低空飛行訓練の中止を強く申し入れるべきです。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

平成24年7月20日

岩手県一関市議会

内閣総理大臣 殿  
外務大臣 殿  
防衛大臣 殿